

ヘルメットによる熱中症危険値の「見える化」について

中国支社 安全環境品質部

各現場(元請または大型下請現場)において「**熱中症予防担当**」を選出し、現場作業員への注意喚起および「ヘルメット用熱中症計」を用いての「見える化」に取り組む。

- ①日頃より「環境省 熱中症予防対策サイト」(<https://www.wbgt.env.go.jp/>)などを始業前・休憩時等に確認し、暑さ指数(WBGT)等を参考に現場での熱中症注意喚起を主体的に実施する。
- ②現場作業時、熱中症予防担当はヘルメットに「ヘルメットバンド」および「ヘルメット用熱中症計」を装着し、危険度を周囲から見えてわかるようにする。

【熱中症予防担当 セット一式】

- ・ヘルメット(自分が使用しているもの)
- ・ヘルメットバンド(表裏色別)
- ・ヘルメット用熱中症計

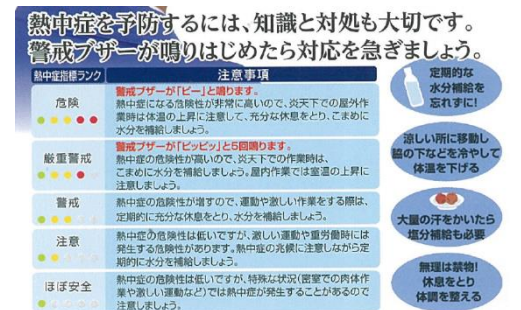


- ◆ヘルバンドが前後左右どちらからでも見えるように装着。ヘルメット後ろ部に熱中症計を装着。
- ◆熱中症計は電池をセットした時点で自動的に10分おきに計測し、横のスイッチを入れると警戒値になった際にブザーが鳴ります。警戒ブザーの有無にてヘルバンドの色を変えてください。(電池切れが無いように注意)
危険状態が続く場合や、熱中症予防担当の判断で注意喚起を継続したい場合などは、熱中症計のブザースイッチを切っても構いません。(危険状態が続くと、10分毎にブザーが鳴り続けます) ブザーを消しても計測はしています。

ブザーなし=青



ブザーあり・自主注意喚起中=ピンク



※ヘルバンドは留め具を外さなければ裏表を変更できません。現場で色を変える場合、簡易的にくるっと裏返しても構いません。

※あくまで目安として使用してください。**各々体調管理に十分に取り組み、こまめな水分補給、休憩をとってください。**
体調不良を感じた場合は、すぐに医療機関にて医師診断を受けるようにしてください。様子見は厳禁です。